

患者説明文書

「緊急脳血管内血行再建術を実施した頭蓋内動脈硬化性病変による椎骨脳底動脈閉塞例の特徴に関する研究」へのご協力をお願い

1. 研究の概要と目的

突然、脳の太い血管(脳主幹動脈)が閉塞して脳梗塞を起こした場合、緊急脳血管内血行再建術(ENER)により閉塞した血管を再開通させることで、神経症状の改善を期待できます。脳主幹動脈には、内頸動脈、中大脳動脈、椎骨脳底動脈などがあります。特に椎骨脳底動脈が閉塞すると、より重症な脳梗塞を引き起こして、場合によっては呼吸停止に至って致命的になることがあります。

一方で、脳主幹動脈が閉塞する機序には、心房細動という不整脈などにより心臓にできた血栓が移動することで生じる場合(心原性塞栓症)や、動脈硬化により長い期間かけて動脈が狭くなり、あるとき突然閉塞する場合(動脈硬化性病変による閉塞)などがあります。いずれの場合もENERを実施しますが、手術手技が異なります。一方で、術前から閉塞機序を予測することが困難なこともしばしば経験します。

そこで、当院脳神経・脳卒中科では、ENERを実施した動脈硬化性病変による椎骨脳底動脈閉塞の患者様の特徴を振り返ることで、今後どのような患者様において動脈硬化性病変の機序を念頭に置き、ENER時の手術手技を選択したらよいかを検討することにしました。

2. 実施施設, 担当医師

京都第一赤十字病院脳神経・脳卒中科	長 正訓	(責任研究医師)
京都第一赤十字病院脳神経・脳卒中科	今井 啓輔	(分担研究医師)
京都第一赤十字病院脳神経・脳卒中科	山田 丈弘	(分担研究医師)
京都第一赤十字病院脳神経・脳卒中科	沼 宗一郎	(分担研究医師)
京都第一赤十字病院脳神経・脳卒中科	加藤 拓真	(分担研究医師)
京都第一赤十字病院脳神経・脳卒中科	田中 義大	(分担研究医師)
京都第一赤十字病院脳神経・脳卒中科	大林 宏旗	(分担研究医師)

3. 研究内容与方法

当科でENERを実施した頭蓋内椎骨脳底動脈閉塞の患者様の中から、原因が頭蓋内動脈硬化性病変または心原性塞栓症であった患者様を抽出し、動脈硬化が原因であった患者様の特徴を検討します。対象期間は2014年4月から2023年12月までとします。収集するデータは患者基本情報と疾患関連情報(年齢や性別などの基本情報、基礎疾患、画像所見、脳梗塞の時間経過、手術内容や手術成績、転帰など)です。

本研究の対象患者様のデータを、所定のフォーマット(パスワード付きエクセルファイル)で一括して管理し、データの解析は京都第一赤十字病院脳神経・脳卒中科にておこないます。情報は院内にて厳重に管理され、第三者への提供は致しません。本研究の結果は学会発表・医学論文として公表する予定です。

4. 患者様の利益・不利益

本研究では、通常の診療情報の解析のみを行うもので、患者様に利益も不利益も生じません。本研究への参加に関しては、本揭示をもって文書同意に代えますが、同意いただけない場合は、研究データへの組み入れを取り消しますので、下記までご連絡ください。なお、同意いただけない場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

5. 事務局・患者様問い合わせ窓口

〒605-0981 京都市東山区本町15丁目749番地

京都第一赤十字病院 脳神経・脳卒中科

電話 075-561-1121(代表) Fax 075-561-6308

責任研究医師氏名 長 正訓(masanori-cho@kyoto1.jrc.or.jp)